

「水野議員、市政は大統領制だから 是々非々はありませんよ」

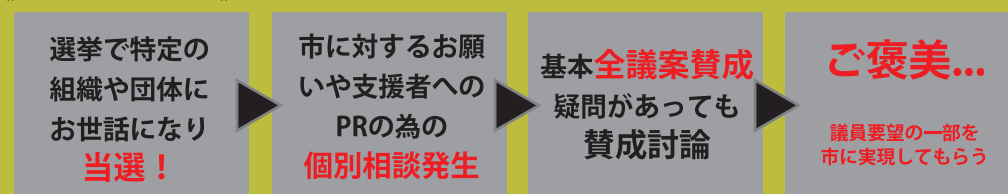
前回選挙直後、初めての議会を迎える数日前に市長からお声掛けがありました。「何だろう？」と思い市長室に伺い、暫しの雑談後に頂いた議会政治の世界で最初に受けた洗礼の言葉です。

大人の解釈をするなら「議案に反対したら今後要望は聞かない」ないしは「賛成すればご褒美」という大学の先輩としての親心だったのかも知れません。しかしあくまで議員は「市民の代表」。住民の皆様には十分な説明や事前の議論のないまま、数10億～100億円単位の事業を一部の声だけで進める事があれば、議員生命を賭け修正に力を尽くす事が必要と考えています。水野は市民の皆様から“幅広い生のご意見”を頂きながら今後も「是々非々」を貫いて参ります。

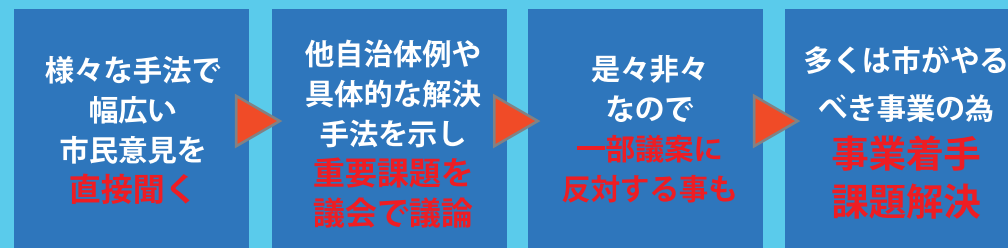
- 市民の皆様には十分な説明がなくいままで実施に至った事業
- ・新庁舎建設事業 120億円＋α
 - ・新浦安駅前音楽ホール整備事業70億＋α
 - ・体育館エアコン設置事業 30億
 - ・少子化対策基金 30億



《よくあるケース》



《水野の場合》



何でも賛成はダメ、何でも反対もダメ
だから、水野は是々非々！

そうだ、水野に聞いてみよう！

Q 1：市政の一番の問題点はなんですか？

A 1：市民への説明や事前の議論もないまま、多額の予算を伴う事業が限られた一部の声で進められてしまう点ではないでしょうか。

H27年3月議会でも、僅か654筆の署名で決まった「新浦安駅前音楽ホール整備計画」に、70億円以上の税金が投じられる事が明らかになりました。（民間ビル建設費50億のうち市負担20億、30年間の賃貸料50億円）

このように、十分な議論と市民告知がないまま、多額の予算を執行する傾向があります。今後の計画（入船北小学校跡地、東野給食センター跡地、企業庁から12億円で取得した境川河口船溜まり用地の利用法、高洲地区5.5ha）では、更なる情報発信で市民意見の取り入れを実現します。

Q 2：浦安に市議会議員は何人いるのですか？

A 2：浦安市議会の定数は21名です。人口比最少定数なので更なる削減は不要です。しかし僅か10名程度の賛成議員がいればどんな議案でも議論を重ねることなく可決してしまう弊害が発生します。

しかも、特定の組織・団体・組合や首長からの支援を受けた議員が多数を占めると、本来議会が果たすべき監査機能が失われ「なんでもOK議会」になってしまうので十分な注意が必要です。

昨年7月、公明党田村議員が選挙区鞍替え県議出馬の為辞職し、さらに市長選で2名が自動失職した場合、3名もの議員が不在になる可能性があります。震災復興予算審議に悪影響を及ぼす懸念があった事も、市長選出馬を断念した理由の一つです。浦安の市議は他自治体に比べ、より重い職責を担っている事を、以下の比較表でご確認いただけます。

自治体名	人口(万人)	議員定数
浦安市	16.2	21
習志野市	16.5	30
流山市	17.1	28
佐倉市	17.7	28

Q 3：号泣県議で話題になった「政務活動費」は？

A 3：現在も街は震災復興中である点を考慮し、当選以来毎年全額返還しています。

議員報酬から調査費用や議会報告の作成・配布費用を捻出し、更に自前の防犯青パトと防犯バイクを自費で運行しています。やはり、市に対し公正な改革を求める以上、議員自らが率先して身を削るべきと考えます。

議会において水野は、国が市に対し廃止を求めている支給月額7,000円の「市職員 持ち家手当」の削減を提言した結果、H26年度から実行されました。

私自身も、政務活動費の全額返還で、それ以上の額の「痛み分け」をしているからこそやるべき事を正面から指摘出来たのではないかと考えます。

Q 4：市議になった理由（動機）を教えてください

A 4：浦安市は国内屈指の財政力に恵まれているにも関わらず、一部の市民サービスは他自治体に遅れを取っています。また、入札・補助金・各種事業でも多くの疑問点があります。

一部の声で全てが決まる今の市政運営ではなく、あくまでも市民が主体の市政運営が確立されれば、国内最高水準の行政サービスと世界から注目される素晴らしい自治体を実現する事は十分可能だと信じています。

これらの課題解決のために、4年間の議員活動では、特に情報公開に力を注ぐとともに、市民の皆様には、本来浦安市で実現可能な事をご理解していただき、多様な価値観の中から公平で公正な選択をしていただける「しくみ」作りに力を尽くしています。

水野は市民のために
とことん働きます

浦安市長選挙2014 出馬断念に関するご報告

市長選への出馬断念で多くの皆様にご心配とご迷惑をおかけした事を心よりお詫び申し上げます。

乱立防止が鍵となる選挙であった為、予想される全ての陣営はもとより前回落選時に引退宣言し今回は当初から立候補しないと公言していた折本氏に対しても、複数回確認のうえ出馬決意を固めました。幅広いご意見を集約した具体的で実現可能な公約を掲げ、供託金100万円を一番に納め各種事務手続もほぼ完了。選挙に要する6割相当額を投じ事前準備を進める中、急転直下の折本氏出馬に私を含む多くの議員がたいへん驚きました。

「具体的な政策を欠いた多選批判一辺倒だけでは到底勝てない」と直前まで働きかけました。しかし「勝機あり」と確信する折本氏の頑な姿勢は最後まで変わらないため、

- ①公約がないなら私の公約を掲げる事
②今後浦安選挙区での一切の選挙に出馬しない

上記2点を申し入れ、断腸の思いで公示3日前に出馬を取りやめる苦渋の決断に至りました。

多くの皆様のご支援を頂きながらも、結果的に「不戦敗」の事態を招いた全ての責任は私自身の力不足と至らなさである点を重ねて陳謝申し上げます。

みんなの党離党・党消滅について

「第3局の理念」のもと浦安市議会でも改革に汗を流して参りました。しかし、疑問の声が多く寄せられる現職に対し政党推薦を出す判断は、本来の理念からあまりにもかけ離れていた事から離党を決意しました。

その後、理念を共有していた多くの仲間が参加する「維新の党」さんからお声掛け頂きましたが、政党の枠にとらわれず幅広い住民の皆様のご意見を承る事が重要との判断から丁重に辞退し、現在も「完全無所属」として議会活動を続けております。

